

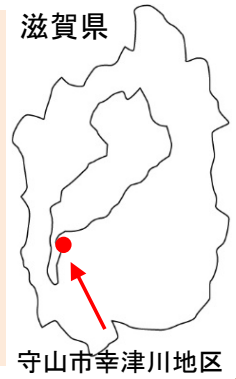
地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

【地区の概要】

- 水田作と畑作が主体の平地農業地域
- 高齢化の進展や後継者不足に伴い、耕作をしていない農地が増加していることから、担い手（法人を中心とした認定農業者）への農地集積を進めていく必要がある地区

【支援内容・背景】

- 高齢化、後継者不足により耕作をしていない農地について、担い手の経営発展を推進するため集積・集約を支援する必要。
- 助成対象者は地区内で大規模水田作経営を営む者であり、近年、経営面積を急速に拡大し、今後も面積拡大を志向しており、併せて経営の合理化や雇用拡大も実践。このため、地区における大規模経営の経営力強化の取組モデルとして育成・支援。



助成対象者「有限会社林農園」の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- 平成12年 農業経営改善計画の認定
- 平成17年 法人化（有限会社）

《事業活用の背景》

- 経営規模の拡大を図るためには、経営面積を拡大し、高収益作物の導入や売上高の増加が必要。経営面積の拡大に向け、防除作業の効率化に資する高性能機械を導入。

【事業実施時の状況】
〈H30年度〉

- 売上高 37百万円
- 作付作物 水稻、小麦、大豆
- 経営面積 35.6ha

《事業による整備内容》

- 無人ヘリコプター および散布装置 1台
- 事業費 14,412千円
（国費 4,003千円）



【現在の経営状況】
〈R4年度〉

- 売上高 62百万円 **(167%)**
- 作付作物 水稻、小麦、大豆、**白ねぎ、大根、とうもろこし**
- 経営面積 40.2ha **(113%)**

事業の
効果

《対象者》 農作業の効率化により、経営面積の拡大（高収益作物の導入）が実現し、売上高の増加が実現。
《地区》 担い手への農地集積が図られることにより、高収益作物を導入した複合経営が可能な大規模水田作経営モデルが確立。